

# 主な実績

## ◆健康ポイント事業(ミナモ健康カード)の導入

健康診査やがん検診、健康講座や運動教室などへの参加など、市町村が指定する健康づくりメニューに取り組むと、その取組に応じてポイントを付与され、所定ポイント数を獲得すると特典(ミナモ健康カード、抽選申込書)が得られる制度を導入。  
県内各地の協力店に「ミナモ健康カード」を提示することで、様々な特典を受けることができる。



## ◆県有施設・交番・駐在所の全てにAEDの設置

県内全ての交番(87カ所)、駐在所(135カ所)を含む県有施設(479カ所)にAEDを設置。  
全国初の取り組み。  
交番駐在所への設置により24時間365日、利用が可能に。



## ◆介護ロボット導入促進補助金の創設

介護施設等が介護ロボット(介護職員の重労働を軽減する電動リフト付き補助ロボット、認知症の方が就寝中にベッドから起き上がったことを介護職員に知らせるセンサーなど)を導入する際に、1機種につき最大30万円を補助。介護職員の負担を軽減。



## ◆「ぎふっ子カードプラス」の導入

県内に住んでいる18歳未満の子どもが3人以上いる世帯に交付するカード。県内の協力企業・店舗においてカードを提示することで、商品購入の際の割引やポイントサービスなどの様々なサービスが受けられる。  
多子世帯を地域全体で応援。



## ◆全県立高校へエアコンの設置

エアコンの設置には多額の予算が必要なため、先行事例を調査し、説得力ある財源プランを県議会で提案。  
教育長から前向きな答弁を引き出し、その後も予算要望を行った結果、2019年夏前までに、未設置の県立高校へエアコンが設置されることに。



## ◆県内産業の生産性向上支援

IoTやAIなどを活用し業務の効率化を図り、企業の生産性向上を支援する施策を推進。



## ◆ヘルプマークの導入・配布

外見上では障がいがあるとはわからない方が身につけることで、支援を受けやすくなるマーク。  
東海北陸7県で初。全国では10番目。  
希望者全員に障害者団体等を通じて配布。



## ◆保育士の確保

一定期間県内の保育所に勤務すれば返済免除となる、保育士修学資金貸付事業の導入。  
またH30年度から保育士・保育所支援センターの職員を増員し、潜在保育士の掘り起こしや、保育所と保育士のマッチングを行う体制を強化。



## ◆子育て世帯への経済的支援の拡充

第2子以降の放課後児童クラブ利用料減免助成制度の実現(市町村が実施する場合に補助)  
年収470万円未満で3人以上子どもがいる世帯で、3人目の保育料等を無償化。



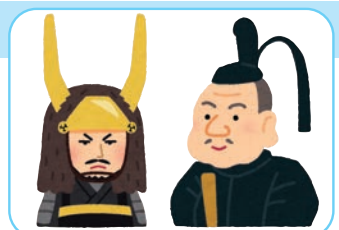
## ◆被災者生活再建支援

災害時に被災した際、生活再建に必要となる「罹災証明書」。  
被災者の申請により、スムーズに発行するための「被災者支援システム」が県下42市町村で導入完了。



## ◆関ヶ原合戦広域ガイドマップ

「関ヶ原合戦の舞台は、関ヶ原だけじゃない」関ヶ原合戦を語る上で欠かすことのできない、東西両軍の主力が激突した岐阜・西美濃地域の史跡等を紹介する「関ヶ原合戦広域ガイドマップ」。  
前哨戦となった「岐阜城攻防戦」等の史跡も掲載するよう推進。



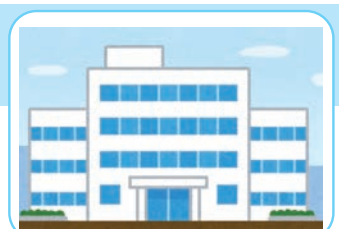
## ◆手話通訳者になるための「全国统一試験」の受験料を7,000円から無料に

## ◆アレルギー疾患対策の推進

気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、花粉症などのアレルギー疾患対策に対応するため、岐阜大学附属病院を「岐阜県アレルギー疾患拠点病院」に指定。  
アレルギー専門医や保健師等の育成、かかりつけ医との連携、患者や家族への情報提供を行う体制を整備。

## ◆退院支援ルールを推進 (切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供へ)

医療と介護両方を必要とする高齢者が増えるため、その方が住む地域において関係機関が連携し、在宅医療・介護を提供できる体制が必要。  
退院支援ルールの設定や、患者情報の共有による病院とかかりつけ医との連携の取り組みが、本年3月から、岐阜市などの岐阜医療圏でスタート。



## ◆岐阜メモリアルセンター内の体育館(で愛ドーム、ふれ愛ドーム)の階段に手すりを設置

## ◆岐阜市真砂町3丁目地内「真砂町3」信号交差点の横断歩道への照明灯の設置

## ◆岐阜市大蔵台地内の県道法面の階段に手すりを設置

## ◆ぎふ清流文化プラザ西側駐車場とその周辺における雨水の排水能力を要望、実現

## ◆岐阜市大菅北地内、西鏡島3交差点の歩道にガードレールの設置

## ◆岐阜市鏡島精華3丁目地内の論田川へ転落防止柵を設置